

ネットワークの形態による生活サービスの類型化

—人口減少と市町村合併に伴う生活圏域と生活サービス手法の再編 その3—

正会員 ○花原 裕美子 *1
同 丸林 美香 *1
同 田中 翔子 *1
同 友清 貴和 *2

生活サービス ノード 類型化 リンク ネットワーク サービス体系

1. 研究の背景・目的

その2では、生活サービスを授受する人と人との関係性を図式化する考え方で、そこで考慮する要素を示した。筆者は、これらの要素によって、複雑で多様な生活サービスがいくつかの図式に分類されると考える。さらに、サービスの授受関係を分析するために、ノードやリンクに対する何らかの重みづけが必要であると考え。そこで、本稿では、生活サービスの体系を明らかにし、モデル化を行うための諸要件を得ることを目的とする。

2. 抽出されたネットワークの形態の特徴

その2で示した、A.対象とするノードの数、B.提供者・対象者の役割の有無、C.サービスの手法の3つの要素から、生活サービスのネットワークの形態は8形態^{註1}に分類される(図1,図2)。また、【II-3.分散活動型】は「B-2.役割無型」に属し^{註2}、複数の親子が、さまざまな親子と一緒に活動を行い交流をするサービスであるため、分散したリンクを形成している。この分散活動型サービスは「交流」を目的とするものが多い。また、【II-1.一斉活動型】のサービスは「講習」などが多い。さらに【I-2, II-2】は、モノや情報のやりとりをするサービスであるため、リンクの方向性が決まっている(方向一意)。一方で、インフォーマルな近所づきあいであるおすそわけや顔の見えない電子掲示板の書き込みなどの【I-4, II-4】は、同じくモノや情報のやりとりをするサービスであるが、提供者・対象者が入れ替わるために、リンクの方向性が一定ではない(方向任意)。

3. 提供者・対象者のサービスへの関わり方

生活サービスの中には、「異なる形態でも性質の同じ生活サービス」が存在する。例えば、テレビ電話などの双方向通信機器を利用した異なる場所にいる人との会話は、配布型サービスに該当するが、「同じ場所にはいない」というだけであり、一緒に会話や相談を行う活動型サービスとみなせる。今後、情報通信機器の発達などにより、このようなサービスが増えると予想される。そこで、形態以外にも提供者・対象者の「サービスに対する関わり方」を捉える必要がある。ここで、サービスに対する関わり方とは、提供者・対象者がサービス授受に至るまでの提供

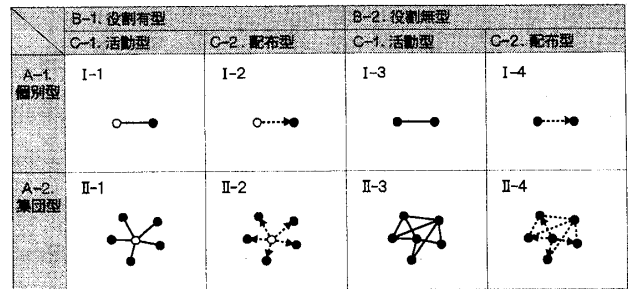


図1 生活サービスのネットワーク形態

①個別活動型		②個別配布型	
1人で行う活動型サービス。提供者と対象者の役割がある場合とない場合がある。		1人で行う配布型サービス。提供者と対象者の役割がある場合とない場合がある。	
I-1 	■保育サービス (施設[保育]子ども) 保護者の事情により保育できない乳幼児を、委託を受けて保育園で保育する。	I-2 	■配食サービス (施設[食事→(人)高齢者]) 在宅高齢者で調理が困難な人、食事の準備が困難な人に対して食事を定期的に届ける。
I-3 	■世間話 (住民[会話]住民) 近くに住む住民と世間話をする。手伝って欲しいことがあれば、手伝ってもらうこともある。	I-4 	■おすそわけ (住民[モノ→(人)住民]) 地域生活に即した情報や町内会の備し物などの告知、安全・防犯・防災情報などを伝える。
③一斉活動型		④一斉配布型	
1:nで行う活動型サービス。提供者と対象者の役割がある。提供者から対象者に対して放射状のリンクが形成される。		1:nで行う配布型サービス。提供者と対象者の役割はない。対象者から提供者に対して放射状のリンクが形成される。	
II-1 	■子育て講習会 (指導者[講習]複数[親子]) 子育て経験者などによる講習会で育児の不安・疑問などの解消、育児支援する。	II-2 	■情報配信サービス (提供者[情報→]複数[登録者]) 携帯電話のメール配信サービスに登録している人に、情報を知らせるサービス。
⑤分散活動型		⑥分散配布型	
n:mで行う活動型サービス。提供者と対象者の役割はない。あるノードからすべてのノードにリンクが形成されるのではなく、リンクが分散する。		n:mで行う配布型サービス。提供者と対象者の役割はない。対象ノードが明確な場合もあるが、一般的にすべての人に情報が公開されている。	
II-3 	■子育てサロン (複数[親子]交流[複数]親子) 乳幼児とその親たちが集まって、保育園などの施設で保育の相談、交流などをする。	II-4 	■電子掲示板 (複数[人]情報[複数]人) コンピュータネットワークを使用して、記事を書き込んだり、閲覧したりコメントを付ける。
子育てサロン(複数)親子[保育]交流[複数]親子 ・スポーツ交流活動(複数)親子(運動)親子		電子掲示板(複数)人[情報]複数人	
凡例 ● 提供者 ——— C-1.活動型 ○ 対象者 C-2.配布型 →→→ モノや情報の流れ サービス事例(主体A[活動内容/モノ・情報(媒体)→][単/複]主体B)			

図2 分類されたネットワーク形態と該当する生活サービス事例

場所への移動やどのように提供者・対象者が接触するのかということを目指す。これらの関わり方を考慮することは、

Classifications of Life service by Form and Character of Network

-Reorganization of living sphere and life service method corresponding to population decrease and consolidation of municipalities-

HANABARA yumiko, TANAKA shoko, MARUBAYASHI mika and TOMOKIYO takakazu

これまで一様な点と線として捉えていたノードやリンクに対する重みづけになると考える。

圏域(移動と距離) 活動型サービスが成立するためには必ず、提供者か対象者のどちらかが活動場所に「移動」しない「③提供者と対象者とがある特定の場所に移動する」の3つが存在し、その性質は異なる。一方で、宅配業者などの仲介業者による物品配布型サービスや情報配信型サービスなどは提供者・対象者とも移動しないままサービスが成立する。とくに、情報配信型サービスはいつでもサービス授受が可能、という特徴がある。

場所(提供者・対象者のいる場所) 生活する住民にとってサービスの行われる「場所」は、先に述べた「移動と距離」にも関わってくる重要な要素である。また、「場所がどこであるか」ということ以上に、提供者と対象者とが「同じ場所にいる/異なる場所にいる」という概念が重要である。近年の移動式情報通信機器の発達は、従来では「異なる場所」にはではできなかったサービス供給を可能にするなど、サービスの種類によっては、供給範囲が拡大可能となる。

信頼・規範 活動型サービスは、機能重視の配布型サービスと異なり、提供者と対象者とが一定時間一緒にいて活動を行うサービスである。中には、保育や介護など提供行為が対象者の生活行為に及ぶものも少なくない。これらのサービス関係がうまく成立するには、提供者と対象者との信頼関係が重要だと考えられる。活動型サービスの中でも、とくに1:1で活動を行う個別活動型サービスは、その傾向が強く、信頼関係といった心理的要素が提供者・対象者の関係性を大きく左右するといえる。

4. ノードとリンクの重みづけ

生活サービスにおけるネットワークの動態を捉えるには、サービスの成立する一時点を図式化した「形態」だけでは不十分である。そこで、より実態に近いかたちで生活サービスを把握するために、その2で図式化されたネットワーク形態に対してノードやリンクの重みづけを行うことを考える。3.で示した「圏域」や「場所」、「信頼・規範」は、ノード間の「関係性」を示す要素であり、ネットワークをモデル化する際のリンクの重みづけとして有用性があると考えられる。

5. サービスの体系

ネットワーク形態から生活サービスを捉えると、先に示した8形態を基本として、図3のような生活サービス体系が描ける。特に「情報共有」を目的とするサービスは【I-4. 個別配布型】電子メールや【II-1. 一斉活動型】講習会などによる技術指導、【II-2. 一斉活動型】公民館での広報誌配布など、その形態が多様である。一方で、「介護・保育」など、人の生活行為を補助するサービスは、提供者・対象者が「一緒にいなければならない」ことから、

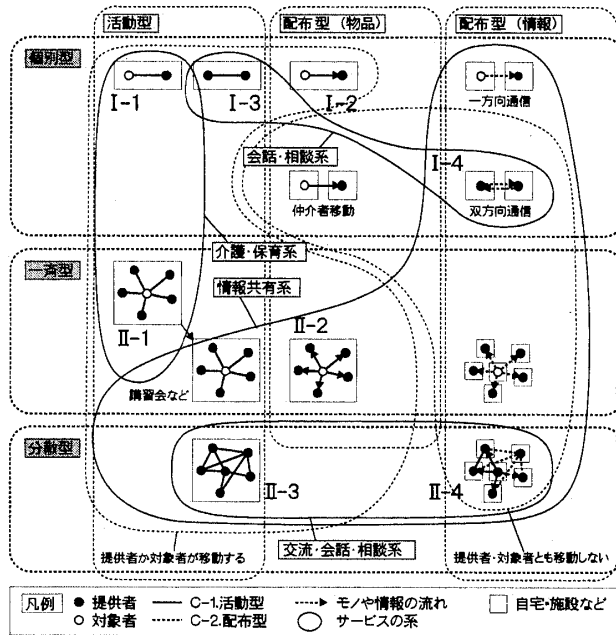


図3 ネットワーク形態からみた生活サービス体系

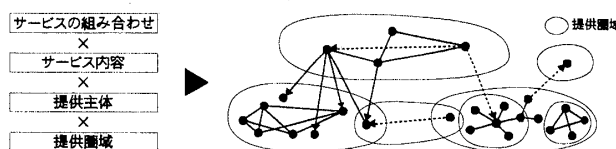


図4 生活サービスのイメージ図

サービス形態は限定的であり、新たなサービス形態も考えにくい。また、分散型サービスは「交流」を目的とするものである。サービス形態に対して、サービス系は情報共有系/介護・保育/交流系の3つに分類される。

6. 結論と今後の展望

人と人との関係性の視点から、生活サービスは8形態に分類される。また、生活サービスを提供者・対象者のサービスへの関わり方から捉えると、形態には表現されない、圏域/場所/信頼・規範などの要素がノードやリンクの重みづけになるといえる。今後は、それぞれの生活サービスをどのように組み合わせるのか、どの範囲で完結させるか、誰が提供するのが適当であるのかなどを見直し、モデル化を行う(図4)。

【付記】

本研究は、平成20~22年度科学研究費基盤研究(C)(課題番号20560574)の補助を受けたものである。

【註記】

- 1) 筆者が調査した限りでは、例えば「集中型」の生活サービスは「子育て講習会」や「情報配信サービス」など提供者・対象者の「役割有型」のサービスしか存在しなかった。3つの構成要素の組み合わせだけを考えると12形態のネットワーク形態が存在するが、調査した生活サービスの中には存在しない形態もあったため、最終的に8形態となる。
- 2) 子育てサロンなどがその典型的な例である。主催する提供者として行政などが存在するが、サービスの活動は複数の親子が相談、交流するものであり、提供者・対象者という役割は存在しない。

*1 鹿児島大学大学院理工学研究科 修士課程

*1 Graduate Student, Graduate school of Science and Engineering, Kagoshima Univ.

*2 鹿児島大学大学院理工学研究科 教授・工博

*2 Prof., Dr. Eng., Graduate school of Science and Engineering, Kagoshima Univ.